

## カブトエビを知っていますか？

「古生代から進化を止めた生きている化石」で「乾燥卵は10年以上も孵化する能力を持つ」というとても不思議な生き物です。また、「田の草取り虫」と呼ばれ、田んぼの草取りをして、人の手助けをしてくれる役に立つ生き物なのです。

# 第1回 カブトエビ・シンポジウム

田んぼの生物多様性保全とカブトエビ農法の可能性を探る  
～日本におけるヨーロッパカブトエビ発見60周年記念～

カブトエビは2億3000万年前から地球上に生存している「生きた化石」です。

なかでも「ヨーロッパカブトエビ」は最も古い形態を残し、日本では1948年に山形県酒田市広野三本柳の水田で初めて発見されました。

その後、県の天然記念物に指定されましたが、近年の水田環境の変化や農薬等の影響により、その生息域、生息数が減少し、現在では県レッドデータブックにも記載されています。

シンポジウムでは、古生代から生命をつないできたこの「ヨーロッパカブトエビ」の生息できる環境を残す方策とともに、「田んぼの草取り虫」として有機農業等での安定的な利用の方法について考えます。

主催

カブトエビ研究会

共催

東北公益文科大学 地域共創センター 山形大学農学部 山形県立農業大学校

後援

山形県庄内総合支庁 鶴岡市 酒田市 三川町 庄内町 遊佐町 JA全農山形庄内本部 JA鶴岡市  
JA庄内たがわ JA庄内みどり JA酒田市そでうら JAあまるめ 庄内農業共済組合 農村通信社  
山形新聞・山形放送 庄内日報 朝日新聞山形総局 読売新聞山形支局 毎日新聞 コミュニティ新聞社  
月刊SPOON編集部 NHK山形放送局 山形テレビ さくらんぼテレビ テレビユー山形 酒田エフエム放送

入場無料

どなたでも参加できます。

開催日程・会場

2008年12月5日(金) 13:30～16:30

酒田市公益研修センター・多目的ホール(東北公益文科大学公益ホール)

なお、16:45～18:00に参加者による懇談会を開催(共創カフェ)

会場のお問い合わせ 〒998-8580 山形県酒田市飯森山3-5-1 東北公益文科大学 地域共創センター

電話 & FAX 0234-41-1065 E-mail: kyoso@koeki-u.ac.jp

## プログラム

- (1) 基調講演「日本産ヨーロッパカブトエビの由来と田んぼの生物多様性保全」  
(公益大 五十嵐敬司)
- (2) 事例報告「カブトエビ除草を利用した有機農業の取り組み」  
(南陽市 生産者 吉田正行)
- (3) 研究報告  
「カブトエビが生きる水環境」 山形大学農学部 (後藤三千代)  
「ヨーロッパカブトエビの卵の不思議と飼育への応用」 山形大学農学部 (青柳桐子)  
「カブトエビを中心とする水田小動物群集の継時変化～酒田市飯森山における調査をもとに」  
東北公益文科大学 (五十嵐敬司、五十嵐健太、大井嘉樹、小野月美  
佐藤康平、高橋千沙子、高山ひとみ、武田純)  
「水田におけるカブトエビの除草効果と農薬が水生動物に及ぼす影響について」  
山形県立農業大学校 (2 学年 佐藤健太、高橋孝行、蛸井利明)
- (4) パネルディスカッション「カブトエビの農業利用の可能性について」  
コーディネータ 呉尚浩 (公益大)  
パネリスト 吉田正行(生産者)、佐藤良平(生産者)、五十嵐敬司(公益大)、後藤三千代(山大)、  
小田九二夫(農大)、

### 五十嵐敬司氏プロフィール

1934 年東京生まれ

1957 年山形大学農学部卒

1966 年からのヨーロッパカブトエビ生態学的  
研究メモ 6 篇、指導した高校生による水田生物  
群集・カブトエビ研究報告 4 篇、酒田市教育委員  
会発行「酒田の自然」(共著)等がある。

元山形県立酒田東高校長

現山形大学農学部・東北公益文科大学講師

日本生態学会・日本応用動物昆虫学会会員

### 吉田正行氏プロフィール

1948 年生まれ

1966 年 4 月就農

1990 年 自作水田でカブトエビを発見  
(柵塚南・北地区)

1993 年 カブトエビ(除草)農法開始  
(柵塚南・北地区の 220a)

2005 年 カブトエビ農法拡大  
(北谷地地区 55a)

以後、06 年 北谷地地区 55a、07 年 南谷地 43a、  
08 年 良彦田 15a を拡大、  
現在 330a でカブトエビ農法に取り組んでいる

